

(様式1)

## 「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	郡上市	学校名	郡上市立大和北小学校		
校長名	金子 政則	対象学年	全校	人数	152人
項目		① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼稚園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
該当する項目1つ	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
以上に○を付ける	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科・道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践			
学校の教育目標	夢に向かって生きる かしく やさしく たくましく				
活動のねらい	小学校における発達段階を踏まえ、自分たちが暮らす地域について、体験的に知り、楽しみ、理解を深めながら学習する中で、地域を愛する人と出会い、その思いに触れることで、地域への愛着や誇りを育てる。				
活動の特色・児童生徒の変容など					
<b>1 コンセプトは「ふるさととは“人”」</b>					
大切にしたいのは「その地域に暮らし、地域を愛する人との出会い」。自分たちが暮らしている地域について楽しみながら知る中で、地域を愛している人と出会い、その人が「この地域を大切に思っている」「この地域が好きなんだ」という思いを知り、自分もそれに共感することが、何よりの「ふるさと教育」につながると考える。					
<b>2 各学年での教科の学習や総合的な学習の時間での学びをつなげる</b>					
これまで、本校で大切に営まれてきた「郡上学」を引き継ぎつつ、その学習が、地域を知り、地域への愛着や誇りにつながるように学びを計画し、実践した。					
◇実践1【1、2、3年生】【生活科】「地域を知り、地域の人に出会う」					
「JAめぐみの」の職員（本校卒業生や地域住民）を講師として野菜の苗を植えた。本年度は、コロナ禍により中止しているが、今後は祖父母やシニアの方と一緒に畑の管理も構想している。					
◇実践2【3年生】【総合的な学習の時間】「大和の自慢を見つけよう」					
毎年、夏に大和町で開催されている「長良川夢花火」について学習した。大和観光協会の河合さん、地元の花火師さんを招いて「長良川夢花火」が始まった経緯、そこに携わった人々の願いを学んだ。「大和地域の人たちが、自慢できる特色あるイベントを生み出したい」「みんなで集い、喜んでもらえるようなイベントをつくりたい」という願いが込められて、この花火大会が生み出され、今も続けられていることや、大和地域には優秀な花火師さんがいたことも、この企画の誕生のきっかけとなっており、今も地元の花火師さんたちの知恵と技が、この花火大会を支えていることについて知る学習となった。児童は学んだことを基に、リーフレットを作成して、保護者に伝え、感想コメントをもらったり、学習発表会（名称「夢フェスタ」）で発表したりすることで、他学年の仲間や保護者に伝えた。					
◇実践3【4年生】【総合的な学習の時間】（テーマ）「みんなの宝 長良川」					
子どもたちが「地元を流れる長良川が誇れるようになる」ためには、その根拠が大切である。自分たちが実際に長良川で魚の稚魚を放流したり、川博士と言われる方から教えてもらったり、水質調査や水生生物調査を行ったりして、自分自身が体験して確かめたことを根拠にして「長良川は世界に誇れる清流だ」と思える学習を目指した。					
○アマゴの稚魚の放流体験：郡上漁業協同組合、釣り具会社の方の普及活動と本校が協働して例年実施					
○水生生物調査①：「清流長良川あゆパーク」体験と「世界農業遺産に選ばれた清流長良川の鮎について学ぶ」機会					
○水生生物調査②：地元を流れる長良川で、地元の講師の方からの体験や学びの機会					
水生生物調査②における講師は、郡上市在住で自然教室のインストラクターの池戸さん。川での遊び方や川の怖さ、一方で川の魅力や豊かな自然のすばらしさについて教えていただいた。池戸さん自身、「郡上人」として、郡上の川や山など、自然をとても大切に思っており、これからも郡上の自然に親しみ、美しく大切にしていってほしいと語ってくださった。児童は学んだことを基に、シナリオやクイズを考え、学習発表会で発表することで、他学年の仲間や保護者に伝えた。					
◇実践4【5年生】【総合的な学習の時間】「地域の方から学ぶ米づくりと地元の財産「剣用水」の歴史とそれを守る人々」					
5年生は毎年、総合的な学習の時間で「米づくり」の学習を行っている。学校の横の田んぼを地元の方から一部借りており、今年度も学校の隣に住む地域住民の山田さんから「田植え」「稲刈り」「稲架掛け」「脱穀」を教えていただき、体験した。また、今年度は、この地域の農業や生活を支えている「剣用水」についての学習を取り入れた。剣用水の維持管理や運用に関わり、地元で中心的な役割を果たしている畑中さんを講師として、スクールバスで実際に剣用水を案内してもらったツアーを行った。剣用水が昔の人たちが苦勞して築き、守ってきた大切な地元の財産					

## (様式1)

であること、今も、その維持管理には地元の住民が協力して取り組んでいることなどについて学習した。児童は学んだことを基に、シナリオやクイズを考え、学習発表会で発表することで、他学年の仲間や保護者に伝えた。

### ◇実践5【5年生】「オペレッタ東氏ものがたり」に関わる学習(総合的な学習の時間のカリキュラムの移行も踏まえて)

現5年生は、令和5年度に6年生として、閉校を迎える学年である。郡上市では、令和6年度の大和地域の4小学校の統合を機に、大和地域、さらには郡上市の住民が誇れる文化として「創作オペレッタ東氏ものがたり」を、住民とともに創ろうとしている。そして、新たに誕生する「大和小学校」の文化として、ふるさと教育と結び付けたいと構想している。その、歩み出しとして、本校でも、大和地域内の4小学校との交流や情報交換をしながら、ふるさとの歴史を学んだり、ふるさとを愛する人の思いに触れたりできるような学習を意図して取り組んできた。

#### (1) 郡上東氏の歩みをたどる学習

1泊2日の自然体験学習に、「郡上東氏」の歩みをたどる学習を取り入れた。

「阿千葉城登山 → 古今伝授の里フィールドミュージアムでの学習 → 篠脇城登山」

東氏が郡上で初めて居城した阿千葉城に登った。この山は、本校の校区である剣地区に入山口がある。市の職員で東氏の歴史や発掘に詳しい講師の方(今津さん)に解説していただいた。東氏が自分たちの学校の近くにある山に居城していたことを知り、児童にとって東氏が身近な存在に感じられるようになったようである。次に古今伝授の里フィールドミュージアムを訪れ、「和歌文学館」「東氏歴史資料館」等の施設を見学した。施設職員(松原さん)に、短歌のことや、東氏の歴史に関わる話を解説していただくことで、東氏の歴史や和歌とこの町との関わりについて理解が深まった。その後、東氏が居城していた篠脇城の登山を行った。山頂では、現在発掘中の現場の見学と、発掘している方(今津さん)からの解説を行っていただいた。こうして歴史的な発見を喜びとしている方が身近にいること、そして、その人たちから、地元にある史跡が、素晴らしい財産、誇れる史跡だと教えてもらうことで、児童にとって学習前と比べて地域にゆかりのある東氏が誇れるようになる学習となった。

#### (2) 大和地域の町おこしのあゆみ・・・「なぜ、大和は『古今伝授の里やまと』なのだろうか」

古今伝授の里フィールドミュージアムの松原さんから、大和地域のまちおこしの歴史と、それに携わってきた人の願いや思いに触れるお話を聞いた。自分たちが、日頃から「短歌」づくりを行っている理由を深く知ることや、住民が誇れるふるさとを築いてみえた先人の願いや取組を知ることで、感謝の思いを抱く学習となった。

#### (3) 「オペレッタ東氏ものがたり」の合唱

4、5年生は、令和5年度11月の初公演で、このオペレッタに出演することに向けて、合唱の練習に取り組んでいる。5年生は学習発表会で2曲を、他学年や保護者に披露した。全校生徒が、この曲を知り、親しめるようにお昼の放送でも流している。将来、これらの歌を、子どもたちが口ずさめるようになることは、大和の子たちが地域の歴史や文化を誇り、愛着が持てるようになることにつながると感じている。

### ◇実践6【6年生】短歌交流会「短歌のまちの子として 短歌を通じて、人とつながる、心をつなげる」

この学習活動は、「古今伝授の里やまと」ならではの学習としてこれまでも行われてきた。今年度は、歌会の形式からヒントを得て、作者を伏せた状態で、参加者の短歌の中から、各々が心惹かれる短歌を選ぶ方法で実施した。また、この学習は、同じ大和地域内に暮らす4小学校の6年生児童との交流、つながりを生み出すこともできた。

「大和」という町名には「大きく和する」という願いが込められており、児童は、自分たちが暮らす地域に込められた願いを知るとともに、他校の仲間と、短歌を通して“和”をもって関わり合ったことが、自分たちが暮らすまち「大和」につながっていることを感じられる時間となった。また、地域情報誌を通じて、この活動を地域に広く発信することで、地域の方々にもふるさと“大和”に込められた願いを知ってもらう機会となった。

## 3 コミュニティ・スクールとして 地域の人と共に創る“ふるさと教育”へ

今年度、本校が力を入れているのは、コミュニティ・スクールとしての学校と地域づくりである。「学校と地域がパートナーとなってよりよい地域やよりよい学校を共に創っていく」そんな思いや願いを、保護者や地域住民へと広めていきたいと考えている。今年度、学校運営協議会の委員を増やすとともに、委員自身に、学校の「パートナー」としての立場から意見をいただきながら、学校づくりを行ってきた。学校運営協議会の委員が、自由に語り合える場を設ける中で見えてきた願いの1つに、「子どもたちに、地元の歴史や魅力をもっと知ってほしい」ということがあった。この願いは、例えば、今年度初めて企画した5年生の「米づくりと『剣用水』の学習」につながると捉えている。地元が誇れる地域資源を学ぶとともに、それを大切にする人の思いや尽力している人の存在、先人の知恵を子どもたちが知ることができたことが大きな成果である。また、活動を学習発表会や地域情報誌、ケーブルテレビ等で紹介して、広く知ってもらうことが、保護者や地域住民にとっても「ふるさとの歴史や財産や魅力を再発見する」ことにつながることを感じた。講師を務めていただいた方にとっても、自分たちの思いを地域住民に広く知ってもらえる機会となり、誇りや生きがいを感じることもつながったようである。

今回報告した「ふるさと教育の実践」を、今後、さらに地域の協力を得ながら、子どもにとっても地域住民にとっても学びや喜びが生まれるような教育にしていきたいと考えている。そんな思いから、次年度に向けて、今一度、地域住民に「子ども育みパートナー」登録の呼びかけを行っている。令和6年度に統合して開校する「大和小学校」は、現在本校が建つ土地に誕生する。その学校のふるさと教育の素地をつくりながら、子どもたちにとっても、卒業生や地域住民にとっても、学校がふるさとと思えるような学校づくりをしていきたいと考えている。